

むかし、うさぎがかめとかけくらべをして、負けて帰ってきました。すると、うさぎ村では、「おまえのように、かめに負けるようなやつを、村に置いておくことはできない。出て行ってくれ」といつて、みんなでうさぎを追い出していました。

まもなく、山のおおかみさまから、うさぎ村に使いがやつて来ました。使いの者はいいました。

「おおかみさまへ、子うさぎを三匹さしあげるのだ」

うさぎ村は、大騒おおさわぎになりました。

「おれの子もかわいいが、他人の子もかわいい。とてもやれるもんじゃないと、毎日毎日、相談ばかりしていました。」

かめに負けたうさぎは、この話を聞いて、のこの村に帰ってきました。そして、

「もし、おれが、子うさぎたちをおおかみさまにさしあげなくてもいいようにしたら、おれを村に入れてくれるかい」といいました。みんなは、

「もし、ほんとうにそうしてくれるんなら、仲間なかまに入れてやるよ」といいました。

かめに負けたうさぎは、勇いさんで、おおかみの所に行きました。

「おおかみさま、おおかみさま。このたび、子うさぎ三匹さしだせとのおおせでごんびありますが、あなたのお顔があんまり恐こわいので、だれも来ようといたしません。つきましては、お願いがございます。がけの上で、あちのほうを向いて座すわっていただけませんか。そうすれば、すぐに連れてまいります」

おおかみは、

「そんなことは、どうさもないことだ」といつて、さっそく、がけの端はしで、あちのほうを向いて座りました。

うさぎは、このぞとばかりに、せいいつばいの力をふりしぼつて、おおかみの背せ中をけりました。おおかみは、でんぐり返つて谷底へ落ちて行きました。

こうして、かめに負けたうさぎは、また、うさぎ村で暮くらせるようになりましたとさ。

おしま

村上郁再話

資料『加無波良夜譚』文野白駒